

【中神・瓜生田地区】『復興まちづくりのイメージ(案)』について ～第3回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第3回懇談会の参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

中神地区



瓜生田地区



【流域治水（遊水地）についての参加者の方の主なご意見】

- 遊水地の面積と掘る深さが貯水量の目標と合うかどうかだが、国交省は既に分かっているのではないかな。
- 景観上のことが気になる。
- 掘り込み式は農業者の仕事を奪う。
- 機能や土地利用も考慮せねばならない。
- 遊水地は下流のためのものとして上流との協力も必須である→上流部の協力を推進してほしい。
- 小さな面積が望ましい。掘り込み式は良くない。東京の地下に貯水している事例（首都圏外郭放水路）を参考にできないか。
- 城本地区は遊水地反対の住民が多い。遊水地整備と分けて人吉・中神の復興まちづくりを考えていきたい。
- 治水事業では中神の遊水地ばかりが説明されているが、人吉を守る上流の遊水地事業の進捗状況も説明して欲しい。流域治水なのであれば流域全体での治水事業の進捗を知りたい。
- これまで2回の懇談会で出された意見がどのように検討されているのか。住民が意見を出せばかりで、その意見に対して行政からの反応が欲しい。（あきだん坂の拡幅や市道下の集落内道路の袋小路解消はどうなったか。）
- アンケートでは詳細に記載してもなかなか思いが伝わらない。被災した住民の細やかな情報が把握できていないのではないかな（特に仮設住宅以外で避難している方）。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.3

中神・瓜生田地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第3回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

中神地区の対象地区は、中神町段、馬場、城本、下原田町瓜生田です。

◆第3回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
 - ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
 - ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案について
- 2 地区ごとの話し合い
 - ・復興まちづくりの方向案、それに対するご意見について

（参考）

地区別懇談会とは別に、国による治水対策（遊水地）に関する説明会が実施されました。

日時：7/25（日）13：00～
場所：中原小学校体育館



中神地区／7月31日（土）14時～
中原小学校体育館で開催しました。（参加人数：30人）

瓜生田地区／7月31日（土）14時～
中原小学校体育館で開催しました。（参加人数：1人）

復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた「復興まちづくり計画」を策定します。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

次回の開催予定：日程調整のうえ改めて連絡します。

次回のテーマ予定：復興まちづくり計画（素案）の取りまとめに向けて

（注）地区別懇談会については、新型コロナウイルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）
- ・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

□は方向案の柱です。 黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の主な意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

取組みの柱	地区の主な課題 (地区の復興まちづくりに向けた主な課題)	取組み方針 (課題解決のための取組み方針の柱)	具体的取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	□住民の負担額減少に向けた取り組み ・嵩上げと書かれているが、嵩上げに関する費用は住民負担と聞いている。宅地の安全性を高めることは重要だが、個人の負担が増えるのは現実的ではない。 ・中神は現地再建しか考えていないのでは？→対策として嵩上げしかないのか。 ・再建住宅への補償も含めて、支援の拡張をしてほしい。 ・住宅再建するに当たり、高齢者には資金面の支援が欲しい。 ・現在は相良町の市有地で災害公営住宅の建設が発表されているが、地域のコミュニティを維持する意味でもせめて中原校区内にも公営住宅を建設してほしい。 □住まいの再建における安全性の向上 ・家を再建するため、周辺の洪水対策状況（道路や堤防等の将来計画等）を教えてください。 ・嵩上げ、道路拡張は実現できるのか。嵩上げを実行するには遅いのではないか。 ・宅地嵩上げ・移転検討地域は元々新しい住宅地で、空き地化しているため、新規の入居者が来る可能性はある。＜下原田町瓜生田＞	□住まいの再建における安全性の向上 □瓜生田地域学習センター（公民館）のリフォーム等 ・補助金を得て、床板を交換済み。＜下原田町瓜生田＞ ・駐車場側に屋根（庇）を設置し、その下を中規模イベントの会場として利用する。＜下原田町瓜生田＞	□安全性を高める建て方の誘導 ・境界沿いに生い茂る樹木の処理。 □町内情報の整備と組織の連携 ・住基台帳の閲覧による世帯台帳を整備や要支援者などの把握。＜下原田町瓜生田＞ ・高齢者のデイサロンの復活。＜下原田町瓜生田＞ ・湧き水や文化財など地域資源を活かした住民が一体となるようなイベントの開催。＜下原田町瓜生田＞ □コミュニティの再生 ・公民館前に直販所を設置（以前公民館近くに無人販売があり、立ち話など地域住民が集う、交流する場所だった）＜下原田町瓜生田＞
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	□農地復旧・農業の継続 ・自ら営農されている方や農地を貸している方がいらっしゃるが、引き続き農地として利用していくよりは、何らかの形で、治水に役立ててもらいたい。 ・農機具も古くなり、営農を続けていくには難しい状況にある。できれば、堀込式の遊水地として、利用してもらいたい。 ・農地復旧が数か所進められているが、表面の土砂を剥いただけで、耕土の復旧等は、行っていないように見受けられる。 ・地区内に居住する営農者は1名おり、自力で再建している。残りの農地は他者に貸出し、または他所に住居を有する住民が通っている形で稼働している。＜下原田町瓜生田＞	□農地復旧・農業の継続 ・治水対策の状況を踏まえつつ、農地の復旧、優良農地の維持、営農形態の見直し等による農業の継続を図る。	□農地復旧・農業の継続 ・遊水地のあり方（農地の活かし方）についての早急な情報提供。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 ・あきだん坂は拡張するだけでなく、現状の農道から市道にしてほしい。 □避難所の見直し・改善 ・指定避難場所の中原コミュニティセンターは、遠くて少し低いところにあり、利用しづらい所があるため、地区ごとに細かく整理したほうがよいのではないか。 ・中原小に避難した住民が多く、介護認定者は特別養護老人ホーム龍生園に移動・避難した。＜下原田町瓜生田＞ □安全な避難方法の確立 ・上流部の降雨状況によって、河川の水位が予見できるため、上流部の降雨状況がわかる情報システムが出来ないものか。 ・避難路を利用する上で必要な視界を確保してほしい。（照明灯の増設、路上に伸びた樹木の伐採等） ・国道219号を使って中原小に避難しようすると渋滞に巻き込まれる。＜下原田町瓜生田＞ ・自主防災組織内に女性部が組織されていない。その結果、炊き出し等の方法が受け継がれていない、弱者へのケアが不十分などの課題がある。＜下原田町瓜生田＞	□安全な避難路の整備 □避難所の見直し・機能拡充 □自助共助の避難体制の構築 ・町内会の行事や瓜生田地域学習センターを活用したイベントを通してコミュニティの繋がりを強化した上で、自主防災組織の活動強化を図る。＜下原田町瓜生田＞	□安全な避難路の整備 □避難所の見直し・機能拡充 □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 □防災情報の伝達機能強化 □自助共助の避難体制の構築 ・公民館周辺の電柱に水位表示を設置。（馬永川と球磨川が合流する地点に水位表示を設置すると地区への転入に繋がらない）＜下原田町瓜生田＞
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	□土砂災害警戒区域 □遊水地 ・遊水地となった場合、現在の自宅への影響が気になる。 ・遊水地になった場合、水面のレベルはどの程度なのか。（R2年7月豪雨では、すでに遊水地になっていた） ・遊水地によって景観のことが気になる。コンクリートで覆うのか。どんなイメージなのか。掘り込み式の実際の写真を見た。（参考資料「小倉遊水地」） ・遊水地は下流域のためのもの。上流域との協力が必須。・上流部では遊水地反対の声があることをうわさで聞いた。 ・掘り込み式では、農業者の仕事を奪うことになるのではないか。・遊水地の機能、土地利用も考慮する必要がある。 ・国は治水のことしか見ていないのではないか。地域の声も聴いてほしい。 □治水対策 ・流水型ダムはきちんと稼働するのか心配。予測できない豪雨に対してダム管理は難しいのでは？いくら流水型にしてもリスクが高すぎる。 ・人吉は多くの河川により挟みうちになる。60年間球磨川の豪雨被害を見て来た。 □排水施設の見直し □地域の自然環境・景観 ・この地域の景観が好きで、段に家を建てた。春にはレンゲ畑となり、緑が一面に広がる。 ・シラサギやトンビもたくさん飛来。 ・冬は田んぼ（低地）と高台とでは気温差がある。 ・空気がおいしく、山、空、川の風光明媚な場所。	□遊水地に関する情報提供 □本川・支川の水位の低下 ＜遊水地＞・上流域との協力を推進。 ・遊水地の場合は掘り込み式、または堤防を高くする方法のどちらかだろう。 ＜引き堤・堤防＞・遊水地より引き堤にしたらどうか。 ・大柿地区の毘沙門の所、小柿公民館の上の高さに堤防を作ったらどうか。 ＜ダム＞・普段の管理を徹底してほしい。気候変動が顕著で、これからのダムは昔のダムと異なる。 ・瀬戸石ダムは撤去しないのか？（遊水地は下流側で止めても意味がない） ＜河川＞・河川の掘削は今後進むのか？毎年、下流部で砂を撤去しているが、その意味（効果）は？ □治山対策 ・橋の流出対策として、山の流木が流れ込まないようにする。 ・治山も考慮すべき（緑の治水） □排水施設の整備 □自然環境や地域景観の継承 ・中神の美しい自然を復興させたい。	□遊水地に関する情報提供 □遊水地 ・小さな面積での掘り込みの模索（東京では地下を掘り下げている。東京の事例を参考にできないか。） ・遊水地での対応ではなく、被害にあった時点での補償を行う形式にすべき。 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・災害時の内水排出のポンプの自動化。 ・馬永川の河道掘削は必要ない。（球磨川本流の掘削が行われれば、馬永川の掘削は必要ない）＜下原田町瓜生田＞